

議長 局長 補佐 係



平成31年3月19日

鹿追町議会議長 埴 渕 賢 治 様

総務文教常任委員会

委員長 加 納 茂

所管事務調査報告書

本委員会は、下記のとおり所管事務調査を実施したので報告いたします。

記

1. 調査期間 平成27年6月19日～平成31年3月19日

2. 調査項目

- (1) 地方創生と人口減少問題について
- (2) 幼・小・中・高教育問題について
- (3) 関係公共施設の整備状況と利用状況について
- (4) その他所管に関する事項について

3. 報告者

委員長	加	納	茂
副委員長	武	藤	敦 則
委員	安	藤	幹 夫
委員	川	染	洋
委員	畑		久 雄

4. 調査詳細

[平成27年]

(1) 調査期間 11月16日(月)～11月19日(木)

(2) 調査地・調査項目

① 富山県氷見市

人口規模、構成にあった施設活用・土地利用・機能・ネットワーク
について

② 福井県大野市

少子化対策等特色ある事業について

③ 福井県鯖江市

学校図書館支援について

(3) 調査報告：平成27年12月15日 第4回定例会

[平成28年]

(1) 調査期間 10月3日(月)～5日(水)

(2) 調査地・調査項目

① 東川町

移住、定住促進及び地域の活性化への取り組みについて

② 沼田町

雪と共生するまちづくりについて

③ 石狩市

地域の拠点を目指した図書館運営について

④ 千歳市

住民への防災意識高揚の取り組み

自主防災づくりの活動について

⑤ 平取町

町民税1%まちづくり事業について

(3) 調査報告：平成28年12月21日 第4回定例会

[平成29年]

(1) 調査期間 10月23日(月)～25日(水)

(2) 調査地・調査項目

① 名寄市

移住定住促進への取り組みについて

低炭素のまちづくり計画について

② 東神楽町

人口増を続ける施策について

花のまちづくりについて

コミュニティ・スクールの取り組みについて

③ 秩父別町

移住、定住の取り組みについて

滞在型交流体験農園について

④ 比布町

移住、定住支援策について

自治体広報の新しい取り組みについて

(3) 調査報告：平成29年12月14日 第4回定例会

[平成30年]

(1) 調査期間 10月16日(火)～18日(木)

(2) 調査地・調査項目

① 新ひだか町

複合施設の図書館整備状況について

② 新十津川町

先進の図書館整備状況について

③ 北海道庁

道内における移住・交流促進に向けた取り組み

④ 栗山町

移住・定住、人口減少対策について

⑤ 三笠市

小中一貫コミュニティ・スクールについて

(3) 調査報告：平成30年12月14日 第4回定例会

5. 考 察

(1) 地方創生と人口減少問題について

この問題は、全国的に大きな課題であり、調査したどの自治体もさまざまな方法で難問に取り組む状況が見受けられた。

富山県氷見市では人口減少を想定し、町の無秩序な拡大防止と公共機関の効率的な配置を軸としたグランド・デザインを制定した。

東川町と東神楽町では、旭川市に隣接する好条件もありベッドタウンとして大規模な分譲事業で定住が促進され人口増加に転じたが、分譲が終了した近年においては、人口が微減してきている。

各町村においては、移住定住者の定着を目指した施策を展開しており、東川町では写真甲子園の開催による交流人口の増加や外国人留学生の受け入れを行うため日本語学校を創設する等、新たな視点での施策を推進している状況も見受けられた。

全国の人口は、都市は濃く狭く、地方は薄く広い状況の中、人口の偏在が解消されるためには相当の年月が必要であり、少子高齢化、一極集中の解消等、解決しなければならない問題は山積している。国に対しその施策を積極的に展開していくことを求めるとともに、我が町もその流れを食い止めるための方策を講じていかなければならない。

今後、住民から幸せを感じるような手厚い福祉政策が求められるのは必然であるが、町の特性、特徴を活かしたまちづくりが必要である。

(2) 幼・小・中・高教育問題について

本町の幼小中高一貫教育は、既に定着しており他にはこの例はないが、コミュニティ・スクールはどの地域でも積極的に取り組んでいる状況にあった。

三笠市では、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを併用し地域住民を巻き込んだ特色ある教育が実践されていた。地域の維持、活性化には幼少期からの子供教育がいかに大切か、そして地域を理解するうえでもコミュニティ・スクールの果たす役割は大変大きいものであり、本町も始まったばかりではあるが、より一層の充実と内容の高度化が求められる。

(3) 関係公共施設の整備状況と利用状況について

今期の調査で特徴ある施設として、氷見市では、閉校した高校の校舎を改造し市役所庁舎として使用していることは特徴的であった。市長の政策に基づいたものであるが工事費はかなり縮小されたとのことである。各種公共施設の配置についても人の流れを考慮したランド・デザインにマッチしたものである。

また、主に重点を置いたのが図書館の施設と利用状況である。視察したそれぞれの自治体では比較的新しい施設が整備され、本棚の高さ、採光等、機能を最大限に発揮できる仕組みや工夫がされていた。管理運営の面でも図書司書の適正な配置等により学校図書室との十分な連携、読書通帳の発行等、各施設で特徴的な取り組みがされていた。また、郷土博物館を併設し、学芸員を配置しているところもあり、子供たちが地域の歴史や文化を学習する場所として今後の町の活力、活性化につながるものとする。

本町の図書館整備にあたっては、大勢の町民が利用できる多目的な施設として検討する必要がある。